



収穫作業は連日続く

のレタス生産コストは日本の約5分の1程度であるという。また、収穫作業中の畑には簡易トイレがいたる所に置かれるなど、衛生面ではきちんとした約束事があるようだ。万一「O-157」のような病原菌の発生地となったら、サリナス全体での損害は莫大なものになるであろう。雑草対策や病原菌対策には特に厳しく、徹底した経営管理が行われているようだった。



あたり一面のイチゴ畑

いてあるほどで、賭博の街として世界に名だたるこの都市も、近年は家族連れが楽しめる娯楽都市へと変貌しつつあるようだ。あちこちにテーマパークや建設中のホテルなども目立ち、表裏の利害が合致しているのか、治安はかなり良さそうだ。短い滞在ではあったが街中に物乞の姿はみかけなかった。折角こまできたのだからとスロット体験を試みるが「残念」。しかし日本のパチンコほど怪我は大きくない。説明によるとラスベガスでのギャンブル年商は12兆円程度、日本のパチンコ産額は30兆円以上と言われている。そのギャンブル好きの国民が見たらラスベガスは、景気もよさそうで、大人と子どもの夢が宿る街として輝き始めているようだった。

空港へは銚子・茨城方面から入る。眼下に広がる水と緑豊かな土地に安心し、日本で育つ野菜と、あのサンノゼ上空から見た赤茶けたシエラネバダ山脈に降る雨や雪で育つ作物との違いを考えてみた。「味だけは決して負けないだろう」と、アメリカの大地のすこさからしっぽを巻いて逃げ帰りがらも、一つだけ負け惜しみを言えたのだった。

この4月に施行されたアメリカの新農業法には、多くの農民が支持する中で、コメ団体は最後まで反対していたという。生産調整を廃止し、作付けも野菜果樹を除いて自由化し、目標価格を基準年他不足払いを廃止して、代わりに7年間で限度に額を固定した支払いを行う……というもので、アメリカ政府の財政赤字削減の一環としての補助金カットは、田牧氏をはじめとする米作農家には辛いものがあるのだろうか？ それにしても7年間というのは日本の新食糧法に足並みを合わせたかのようにだ。これによってアメリカの農業もより市場性を強め、価格変動から生き残るための農家同士の自由競争に拍車がかかり、今後は多角経営を展開しうるより力の強い家族農場のウエイトが高まると思われる。政府は、自由な作付け選択により食糧高騰を抑制できるとしているが、は

海外視察を体験発表 横芝町農業振興大会

11月8日、町文化会館を会場に農業振興大会が開催され、先にカリフォルニアを視察した6名のみなさんによる体験発表などが行なわれました。

この大会は、横芝町農業振興会（伊藤良一会長）が主催して毎年この時期に行なわれているもので、町内の農業者がそれぞれの農業技術の研究成果を発表することで、各農業者の農業改善意欲の高揚を図ろうというものです。

また今回は、この体験発表の他に山武農業改良普及センターの北田茂先生による「千葉県の園芸の振興方向について」と題した講演も行なわれ、会場に集まったみなさんは熱心に耳を傾けていました。



発表を前にあいさつする6名のみなさん

たしてそうだろうか？ どうも人は、一度覚えたあの味が忘れられず、再び柳の下を狙う習性があるようだ。まして近頃、地球がかかえる異常気象という爆弾は、いつ暴発するかもしれない。ちよつと斜に構えてみた「新農業法」は「世界のパン籠」のこのタガが外されたのでは……？ いずれにしても経済合理性を追い求めるアメリカの農業は広大故に強い。サリナスの野菜は今でも日本にとっての脅威だが、補助金という哺乳ビンから7年後にひとり立ちしたカリフォルニアの米産業者が、どれほどの影響

響を我が国、我が町、我が家にもたらすのだろうか？ 長期的な事は誰にもわからない。今できる事は、個人はもとより組合などにおいても、徹底したコスト低減の努力をしなければならぬという事だろう。

貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

今後はこの体験を生かし、町農業振興のために少しでも役立ちたいと思います。

視察者一同
鈴木喜一（中台） 實川 隆（坂田）
伊藤政信（本郷） 海保光雄（宮前）
川島敏彦（関場） 真行寺孝佳（本町）